

で、まさにOJTで職人たちに頭下げながら教えてもらった経験があります。現場の仕事に関してはOJTが全てだと思っています。OFF-JTももちろん大切ですが、それは資格取得に関わる部分でしかないのかなと思います。一つとして同じ工事現場はありませんし、完成形の図面などを基に、最善の施工方法を見いだしていくわけで、応用していく思考力が重要だと後輩には指導しています。

■藤田 どの仕事でも最初はそうだと思いますが、専門用語が多くて、ついていけなかったのが一番の苦労でした。例えば、昔からの言い方で「ネコ（一輪車）持ってきて」と言われても分からず、どう対応して良いか右往左往していました。日々、勉強で先輩方のご指導や助言をもらいながら施工管理面の基礎知識を身につけることができました。

■高村 私も大学卒業後、すぐにできると思っていた現場の仕事で、全く見当違いなことをして主任に怒られた経験もあります。ですから、どこで何を学んできたかということは建設の現場では、それほど関係なくて、本人のやる気次第だと思います。

■岩原 ただ必然的に、資格を取るには実務経験の年数の差があるって、指定外学科の方ですと、経験を長く持たないと試験を受けることさえできません。今日の話を伺いながら、そうした部分の改善も徐々に図られるようになっていくのではないかでしょうか。

熱意と柔軟な「発想力」

—最後に、次代を担う後輩たちへ向けて一言お願いします。

■藤田 どんな仕事も、やる前から「自分に向いている。向いていない、分野が違う」など考えすぎず、やってみることが大切だと思います。実際に経験して失敗しても、そこに新たな発見があり、そこから何かつながるかもしれません。

■榎本 私には、この業界に本当に良いイメージがなかったんです。「作業着を着た人とは結婚しない」とまで決めていたんですが、そんな私が今は作業着を着ています。今では「人のため、社会のため」という大きな役割を感じられる仕事だと理解

しています。建設現場は、多くの方と協力し合って一つの工事を完成させ、実現する喜びを味わえます。私も多くの経験を積んで、建設業の素晴らしさを皆さんに伝えていきたいです。

■金子 建設業は地域の活性化を担い、文明を陰で支えてきたと言つても過言ではないでしょう。しかしながら、現在は人手不足に陥っています。このメッセージを受け止めてくれた若者は、ぜひ建設業界へ入ってください。専門的な事を学んでいなくても、現場でたっぷり学べるし、熱意と柔軟な発想力があれば対応できます。

■櫻井 建設業には他の業種にはない魅力が間違いなくあります。辛いこともありますが、我慢し努力し続ければ必ず目



大岩建設 櫻井延明氏



岡工務店 菊池睦人氏

標にたどり着けるはずで、そこにはその現場でしか味わえない達成感、言葉で表現できない景色があります。一般供用される前のわだちのない道路、何もなかったところに大きな構造物が出来上がった景色など、それが建設業の醍醐味（だいごみ）です。

■菊池 現在私は、右も左も分からぬ状態で悪戦苦闘しています。でも、現場が出来上がっていくのを日々、見届けることができ、そこに自分もひと役買っていることにやりがいを感じています。3K（きつい、汚い、危険）のイメージが強い業種ですが、ずいぶん誤解されている部分も大きく、理解が深まるこを望んでいます。また生まれ故郷に役立てる点も誇れるし、同年代や子どもたちにももっと興味を持ってほしいです。初めて立った現場は道路工事でしたが、完成後のイメージが全然なくて、「きれいな道路ってどんな感じなんだろう」と思っていましたが、出来上がる工程を見て、こういうふうに造られていくんだと感心しました。

■寺内 私は専門的な学校を出でていませんが、仕事をしながら経験を重ね、勉強する機会がたくさんあり、徐々に仕事を任せてももらえるようになってきました。図面を見て想像していたものが、現場で形になると想像より迫力があり、初めて携わった



岩澤建設 寺内紀美恵氏

現場は今でも覚えています。また、整備された道路の状態を維持したり、被災地の復旧に当たったり、社会貢献できるのもこの業種の特徴です。

■吉田 建設業は経験が大事ですが、資格がないと一人前にはなれないし、代理人として成り立たないという矛盾した部分もあるなと感じました。

そういう中で、皆さんは限られた時間の中で、時間を有効に使い資格取得を目指し、また見事に取得し、第一線で活躍されているわけです。各会社もフォローできることを模索し、皆さんの後に続く若い世代を迎えていかなければならないと思います。

■高村 元経団連会長の土光敏夫氏の言葉に「会社で働くなら知恵を出せ。知恵のない者は汗を出せ。汗も出ない者は静かに去つていけ」という言葉があります。皆さんは知恵を出し、現場も動かし、工程・品質・安全を見ています。やはり現場をよく知るという面では、汗を出さないと現場を仕上げていくことはできないと思います。ですから余裕がある時は、現場の職人と一緒になって汗を出すことも必要です。そうすればさらに現場のことが分かるようになると思います。

■岩原 全県下を見渡しても、皆さんのように指定外学科から業界に入った方は数少ないです。しかしそこに自負を持っています。多くの若い世代に建設業界に興味を持っていただけるよう、業界の裾野が広がるような努力を続けてほしいと思います。今日のこの日に限らず、皆さんの体験談、達成感といったストーリーを次の世代に伝えていくください。



大岩建設の櫻井氏「橋の支承取替工事でジャッキアップの高さを確認」



岡工務店の菊池氏（右）
「現場が完成した際の出来形を測量」



岩澤建設の寺内氏「作図した図面と製作中の標識板の実寸を確認」

